

# 第 10 回栄村復興推進委員会次第

日時:平成 27 年 12 月 17 日(木)

午後 1 時 30 分から

場所:栄村役場議場

1 開 会

2 村長あいさつ

3 委員長あいさつ

4 議 事

(1) 生涯現役・全員参加・世代継承型雇用創出事業の実績について(資料1)

(2) 第 2 次避難所設置・運営計画について(資料2)

(3) 平成 28 年度復興事業への提言(委員意見)(資料3)

5 その他

6 閉 会

生涯現役・全員参加・世代継承型雇用創出事業 報告書

平成27年10月1日

生涯現役・全員参加・世代継承型雇用創出事業（3年間）は、9月30日終了となりましたので報告します。

【事業概要】

平成24年10月1日から平成27年9月30日の3年間で3事業を行い、高齢者から若者への技術伝承、女性や障害者等が中心の全員参加型を目指す。事業費3億円（緊急雇用補助金）

- ①観光振興事業 受入れ体制の整備、女性高齢者が登場人物となる旅行商品づくり及び誘客宣伝を行い滞在型・体験型観光の振興を進める。
- ②加工品開発事業 村内の農産物を村内で加工し、特産品開発を進める。農業者の生産意欲向上を図る。（収穫・加工体験の場）
- ③伝統工芸伝承事業 若い担い手へ継承させ、技能の保存を図る。工房の確保や材料の調達など必要なバックアップをする。また、工房見学・体験の場・お土産物品として活用を図る。

【栄村の観光がめざす姿】

①栄村住民

住民主役の観光（多くの栄村住民が登場する）

◇大自然の中で生きる賢者

◇厳しい自然や環境の中で生きる辛抱強さと人間力

・宿泊業者・飲食土産品店・住民等

⇒観光客へ「栄村の豊かさ」を伝える語部

⇒「自然との共生」を伝える体現者

②観光旅行者

・都会と対局の豊かな生活を実感

・自然と生きる人々との触れ合い

・人間本来の強さの再認識

①+②支える ⇒ 栄村秋山郷観光協会+栄村振興公社+森宮交通

【事業での雇用職員】（平成24年10月）全16名

- ①斎藤元一②福原義隆③斎藤貞子④秋山隆志⑤山田久美子⑥島田和夫⑦斎藤寿美
- ⑧椎名俊也⑨茂木 聡⑩福原由美⑪藤木理江⑫藤木文徳⑬久保田千鶴⑭阿部洋平
- ⑮大澤 瞳⑯村山俊郎

### 【本事業の住民説明会】

8/28 役場会場 10名参加。加工品製造グループの方が多かった。

8/29 秋山会場 14名参加。宿泊 食事 温泉 木工品 山菜等のオーナー。

⇒ 2会場での説明会（栄村）でしたが、事業内容が解りづらいせいか村民の関心を引くには、もう少し時間をかけた丁寧な説明が必要と感じました。

以上を踏まえ「住民主役の観光実現に向けた具体的な取組」ポイントを報告します。

## ■観光振興事業①

### 【JTB 中部 交流文化部】

観光（交流）による

○ 地域資源を掘り起し、磨きあげることが、交流を促進する。地域を知る事。

○ 事業は、自走化を目指し実効性・持続性の高い事業スキームを考えている。関わる人々が情報を共有し有機的に発展させていく必要がある。

⇒ 当村は立地（気候含む）・観光素材・基幹産業など他と異なる為、他の成功事例を当てはめようとしても成功はしない。

### I、観光地域づくり・人材育成塾 H24年10月1日～H25年3月31日

地域づくりの実施に向け幅広い住民の方の参加が不可欠です。

人材育成は、中長期的に結果を出す自走化のために必要である。

⇒この観光プロジェクトは村民と役場が一体となってはじまった（役場や公社が主導ではない）。一人一人が「本業」を持ち進めて行くには難しさもありました。地域全体の元気につなげていくためには、このプロジェクトを進めていく過程そのものが大切でした。参加者はどのような意識で運営に関わり、具体的に何をすればいいかを学びました。

#### ①観光まちづくりフォーラム

村内で住民に向けた「住民参加の観光まちづくり」や「世界に通じる日本の里山の美」等をテーマにしたフォーラム（講演会）を開催し、機運を高め、更に事業に関わる人材（サポート）も募ります。

⇒講師「三重県鳥羽市の江崎貴久さん」、衰退しかけた地元の漁業や観光業の立て直しに取り組み、地域を復活させた方。H25.3.28の参加者は32名でした。

#### ②人材育成塾（レインボーメソッド）

受講者全員の活発かつ自由な意見を引き出すために「話す力」「聞く力」「表現する力」を習得し、積極的にワークショップやディスカッションで建設的な意見が出せるようにします。また、おもてなしについて学ぶことにより、農業などサービス産業以外の方にも理解を深めていただきます。

・旅行行動モデルの「考え方の基本」が身につく。

・旅行者の気持ちや地域ごとの観光資源について事前に調査した「地域観光カルテ」のデータを活用。データを読む力、アイデアに高める力が身に付きます。

・現場での意思疎通、方針の決定に役立ちます。

⇒ 観光課・公社職員が中心で 20 名参加。2 回の開催でサービス業での基本を学びました。今後職場での実践継続が交流人口増に繋がる事と思います。

### ③地域資源（マーケティング）

電通マーケティングサイトによる全国7都市圏 40000 人対象の旅行意識データと、地域ごとの観光資源やパンフレットの評価を分かりやすくまとめた調査レポート。時系列で実施する事で、PDCA が回せる組織を実現し、観光振興施策の効果に関する説明責任を果たす材料にもなります。

⇒ 栄村観光資源カルテを作成しました。村の現状・旅行者のニーズ メディア利用を確認、村の観光ニーズ（交通手段・季節・期待する観光資源）等をチェック。村民の暮らし自体が資源となり、自然の厳しさや生活の知恵を体感する事が必要。

今年度事業の雇用者・一般参加者を中心に得られた、栄村のコンセプトと地域資源。100 年前の生活の知恵が生きている。「賢者の村、栄村」で2つのチームが編成されました。①栄村の 100 年ごっつお ②日本一の豪雪地栄村「雪体験」

### ④情報発信

・ 他地域への広報・集客を、費用対効果を重視しながら JTB と電通のネットワークを活用。

・ 旅行商品を企画し JTB 旅物語で募集する。また、お客様の反応を分析することにより次の戦略に活かす。

・ 栄村は何を、どのターゲットに、どのような方法で PR すれば、魅力的に伝わるかを戦略的に考える。

⇒村外へ効率的に広報を行い、集客するためのメディア戦略を目指す。(経費減)

## Ⅱ、賢者の村、栄村（百年前の生活の知恵が生きている）H25 年 4 月 1 日～H26 年 3 月 31 日

### ① 観光プロジェクトのアドバイス（継続）

生まれたプロジェクト「食」「豪雪」の商品化の手法、具体的ターゲットへの商品の伝え方 PR の方法を、実践を通して学んでいく。

⇒ プロジェクト目的の明確化と成果測定の手法、チームのモチベーション管理、リスク回避 トラブルの解決方法、ターゲットの明確化、ターゲットにあったコミュニケーションの手法、実践プラン。

⇒ ワークショップで得られた「地域資源」を「誘客可能な地域資源」に変えるため段階的に PDCA（計画戦略・実行・検証評価・改善）を繰り返し実現に向ける。

⇒ プロジェクトを進めるために必要な役割

リーダー（皆の「やる気」を維持）、サブリーダー（リーダーを補佐）、連絡係

### ② 材育成・むら塾の実施

「観光（交流）で栄村を元気に！」をテーマに定期的にだれもが参加できる「村塾」を開催します。

⇒「100 年ごっつお&遊雪村/雪上体験」プロジェクト毎の定例ミーティング

・100 年 6 回定例会開催 村内の食事提供事業者 22 件の「伝統食」提供は難しく表示物を作成し共有している状況。

・遊雪村 3回以上定例会開催 3月上野原地区の現地視察より、商品内容の素案作り役割分担等に着手、冬季モニターに組み込み実施した。現在は夏季キャンプの商品化も進み継続商品となっています。

③ ホームページ制作及び技術指導

・人を通じて栄村の「暮らし」を美しい自然と共に紹介、栄村への関心・動機の向上（村のすごし方の提案）（映像、スチール、私の好きなもの）

・むら歴（笑顔プロジェクト）制作—毎日村の人の笑顔

⇒栄村の暮らしそのものを紹介する。映像4本

④ 着地型旅行商品のテストマーケティング（モニターツアー）

村の地域資源を活かした2つのアクションプランに連動したモニターツアー

⇒平成25年11月8～9日（日）アクティブシニア層

旅行者から伝統食づくりを体験し味わってもらう。泊りは秋山郷の3民宿。

翌日切明けの川原で温泉掘り体験。

⇒平成26年2月22～23日（日）都心で働く若い女性

秋山郷で「かまくら」にデコレーション、夕食後にかまくら周辺で地元の人と交流。キャンドル・スカイランタンを楽しむ。翌日は雪原散歩「早そば作り」。

\*泉質の違う温泉、伝統食づくり体験、宿の人との会話は充実。雪上体験・古道歩き・登山・山菜取りなどの声が多かった。

⑤ 6次産業化と地域づくりのパネルディスカッション

他地域で地域づくりに取り組んで来た方を迎えたディスカッション

⇒平成26年2月18日（火）

パネラー；栄村箕作 えのき茸生産 大庭光一さん

栄村笹原 ズッキーニ生産 関澤義人さん

上田市武石 信州せいしゅん村 小林一郎さん

東京都 47 CLUB 石黒英男さん

\*栄村は生産量が少ない（豪雪地で1次産業の稼働可能時間が短い）

少量の生産物でも商品として成功している事例

流通側が商品に求めること

売れなかった商品を改良したら売れた・・・等、事例の話から学んだ

⑥ ネットショップ運営セミナー

⇒ネットショップで必要なこと

お客様とのコミュニケーションのやり方をおさえてしっかりと交流すること。

売れてるネットショップはお客様に会おうとしている。

人に言いたくなる、教えたい魅力や特徴がある商品。

村に来てくれた事で生まれた縁を活用し広めていくこと。

⇒ネットショップのメリット

情報発信コストが安価（多くの人にいつでも発信ができる）メールマガジン

デジタルデータの入手が安価（集計、分析が容易）

Ⅲ、活用する知見・手法の整理 H26年4月1日～H27年3月31日

これまでの取組で得られた知見を活用しながら事業を推進します。

ターゲットは明確にする中、観光地や他の地域と比較される「自然体験」だけでなく、「生活地」としての栄村に価値・関心・愛着を持って頂ける層と繋がる。

テストマーケティングではアンケート収集だけでなく、関心を示した申込者と交流を深めながら、地域ブランド化につなぎ究極は「住みたい」を目指す。

#### ① 新サイトへの追加コンテンツ制作

H25年度に立ち上げた「自然体で旅しよう」サイト及び「むら歴」(笑顔プロジェクト)の蘭に、追加コンテンツを制作し村人の元気と自信につなげるよう進化させます。

⇒観光トップページ 動画コンテンツ制作(計4本)ムービー編

- ・【森地区】翼に乗せて～滝沢新史くん～
- ・【大久保地区】笑顔の伝承～阿部マシミさん～
- ・100年ごっつお【農家レストランと夏祭りの伝統食】
- ・【秋山郷】天空の苗田 苗場山 ※空撮

\*コンテンツ追加搭載・表示整理の技術レクチャー(村商工観光・公社)

⇒商標管理

商標:「むら暦」 称呼:ムラコヨミ、ムラレキ

登録日:平成27年2月13日(存続期間10年間 平成37年2月13日迄)

#### ② テストマーケティングの実施

共感するターゲットと深く結びつく媒体を選定し、計3回のモニターツアーを実施。関心層とのつながりを主眼に実施し、並行してアンケートを参考に旅行商品の開発につなげます。

⇒モニターツアー

告知は「ランドネ」誌2月号と自動車メーカー「スバル」のアウトドア情報サイトURABUSU※(ウラバス)1月。※募集ページへのリンクが掲載され料金の支払い無し。

① 27年1月31日(土)～2月1日(日) 申込者10組20名(女性ペア)

② 27年2月21日(土)・22日(日) 申込者3組10名(家族)

告知は「長野県東京情報センター」「face book」「今年の参加者と1月来れなかった方」

③ 27年3月14日(土)・15日(日) 申込者3組6名(女性ペア)

●「田舎コンシェルジュ」;村内情報を担う目的で栄村のひと時の滞在をサポートする案内人を立ち上げました。ガイド料をどうするか検討が必要。

#### ③ 広報戦略(伝え方のコツと計画)

ターゲットに届くコミュニケーションの作り方を実践し学びます。

⇒バナーリンク・SEO対策 ⇒【栄村～自然体で旅しよう～】H26.9～H27.3

- ・長野県公式観光ウェブサイト「さわやか信州旅.net」
- ・信越観光ナビ(エリアポータルサイト)運営:新潟日報社、信濃毎日新聞社
- ・北陸新幹線で行こう!北陸信越観光ナビ

運営:北日本新聞社(富山)、北国新聞(石川)、福井新聞(福井)、新潟日報社(新潟)、信濃毎日新聞社(長野)

⇒パブリシティ対策、メディア

- ・「るるぶ長野 善光寺2016」 H27.3月発刊 4.7万部 販売期間2年間

- ・「るるぶ信州 2016」 H27.3 月発刊 13 万部 販売期間 1 年間
- ・地図への情報掲載 3 か所  
観光案内（森宮駅）、手打ちそば処（北野天満温泉）、河原手掘り温泉（切明）
- ・地域認知・ポスター制作 ⇒ 北陸新幹線開業前後に貼り出しを実施  
（栄村観光ページで展開している「村人の笑顔、生活感等」をポスターにした）  
飯山駅、長野駅、東京駅、大宮駅、名古屋駅、軽井沢、佐久平、上田、松本

#### ④ 物産開発

村にある素朴な産品を詰め合わせ、季節感や風物詩を「絵手紙」に綴ってお届けするオリジナルパッケージ「栄村産直パック」をプロデュース。

- ⇒ 首都圏在住の JTB 旅物語の女性会員に絞って販促を実施。旅行カタログの配送の中に栄村産直パックのチラシを同梱。販売価格 3,980 円  
～パックの内容；雑穀 3 種、トマトジュース、米、ぞうり、山菜びん詰め等～

### IV、事業取組具体的アクション H27 年 4 月 1 日～H27 年 9 月 30 日

#### ① 集客のプラットフォーム化

プラットフォーム化フォロー、ウオレットの管理

- ⇒ 「JTB ウオレットシステム」管理サイト利用の操作方法及び留意点などについて説明を受けた。

栄村 HP 管理研修費用

- ⇒ 栄村の人々「ムービー編」と「スチール編」のコンテンツを更新する操作方法  
管理画面＝動画アップ、YouTube へのログイン、写真切抜き、アカウント管理

等

#### ② テストマーケティング

モニターツアー（計 5 回）

- ⇒ 5/5、5/23、6/6 発の各 1 泊 2 日「雪萌え山菜採りと田舎料理作り体験！」  
極野山菜組合のガイドで山菜採り、ぶらり農園で料理作り体験と夕食交流。翌日は、あんぼ作り 絵手紙（芽吹きのみ）体験の 2 日間日程。

- ⇒ 7/18、8/10 発の各 2 泊 3 日「家族の絆深まる大地（ジオ）のキャンプ～秘境秋山郷～」  
家族でテント組立と片付け→野菜収穫とマキ集め→家族で夕朝食作り→河原の温泉水遊び→秘境散策→田舎ごっつお食→草木染体験他の 3 日間日程

募集告知

- ⇒ 春季；ランドネ、URABUSU のアウトドア情報誌

夏季；「旅いく」専用サイト利用（3～12 歳までの子ども達を持つ家族向け、ホンモノ体験の「旅」を通じて子ども達の好奇心を育み成長を手助けする取組）

#### ③ 村のプランディング

映像制作セミナー（映像技術、加工技術、ストーリー作成）

ショートムービー作成フォロー

- ⇒ 映像制作の基本（機材操作編）ビデオカメラの設定 映像フォーマット 撮影の基本 色温度と照明 録音 編集 編集ソフトの使い方 企画構成 シナリ

オロケハン コンテ作成などの講習

画像/映像撮影

⇒観光パンフ、ネット等で情報発信に使用できる現況画像の撮影  
村の観光課、観光事業者からの声もあり宣伝用として保存。

#### ④ 物産の交流促進

商品造成（商品の改修・デザイン包装の変更）

栄村産コシヒカリを中心にした新商品の提案

オリジナル包装に2合のお米を詰め合わせて、特別なギフトとして販売。

⇒パッケージには村の絵手紙を使用。今後は催事の引き出物等、特別なデザイン等を用意しお客様のニーズにこたえる。（加工品の内容量は少なめが人気）

#### ⑤ 広報戦略

メディアとの関係構築（情報発信、集客媒体）

JTB ガイアレック（目的別の様々な知的体験プログラムをネット上に配信）

調布エフエム放送（株）（都内1区7市他の可聴人口：約36万世帯、90万人）

JTB パブリッシング（「るるぶ」情報版雑誌で旅行ガイドブック）

JTB コーポレートセールス（旅いく/全国にある親子体験をネットで予約）

エフエムむさしの（武蔵野市と三鷹市近辺を放送エリア、地域生活情報他）

榎出版社（ランドネ、フィールドライフ、ピークス）自然山キャンプ派

鈴木啓三郎（ナックファイブのパーソナリティ首都圏高視聴率 ほぼ専属状態）

⇒商品告知は商品内容により、そのメディアが持つ専門分野に営業展開する。

メディアとの関係構築（栄村のファン）する事により、村の定期的な情報を発信することができる。

#### ⑥ 村のブランディング

⇒JR東日本「おいこっと」パンフレットへの掲載、JRおいこっと冬企画への参画県内に住む方をターゲットで一定の参加者と広告効果を期待。

## ■観光振興事業②

### 【リクルート じゃらん事業創造部】

山深い“秘境”栄村だからこそ残っている営みや、文化、自然資源を栄村ならではの観光資源と捉え・・・

○都市圏の栄村のファン層「栄村サポーターズ」にその魅力を体感してもらい、第二の“ふるさと”としてのファンになってもらう。

○交流を重ねることで、地域への集客を増やし、結果的に安定的な雇用創出と伝統工芸伝承の担い手を探す第一歩とする。

⇒地域資源を活かした着地型商品開発と販売、情報発信等ができる人材作り。じゃらんnetを使った宿泊プランの販売、来訪者と交流を重ね商品に磨きかけるを学ぶ。

### I、【市場調査と商品開発】H24年10月1日～H25年3月31日

初年度の事業をスタートするに当たり、旅づくり塾、GAP調査、ご当地パンフレットのスケジュールを確認し、いつまでに誰が何を行うかを確認・共有する。



### ① 旅づくり塾

地域が主体となった 6 回のワークショップで、地域資源から“ご当地感あふれる観光商品”を創っていくプログラムです。

⇒公社職員、観光課職員が中心。

・地域の魅力を考える（24名）

（栄村の好きなところ/不満のところ各 10 個等・・・）

・地域資源の棚卸と目玉資源を決定する（21名）

「じゃらんの宿泊調査」より県内宿泊マーケットについて学ぶ。

・ターゲット設定と体験プラン骨子の作成（21名）

・プランのブラッシュアップ（18名）

GAP 調査結果検証と商品のブラッシュアップ

魅力を活かした体験プランを作る。体験プランを散りばめたパンフの作成。

・宿泊施設資源の棚卸と目玉資源を決定する（11名）

（魅力〈ハード、ソフト、立地〉）（お客目線で施設サービスとは何かを考える）

・個人宿泊プランの作成と年間スケジュール立（12名）

### ② 栄村 GAP 調査

地域の観光資源について、ターゲットエリア（東京 神奈川 埼玉 千葉中心）に住む 1000 人の消費者の目から“観光地としてのイメージ”を聞き、どのくらいの人認識しているか、またどのくらい魅力を感じるのかを比較することで地域の強みと弱みがわかり、観光課題の整理と把握が可能になる。

【現状】来訪者数全体の 5%、栄村を知らない人 42%（若い層が多い）

【観光資源・体験コースの認知度と興味度】

観光資源に対する認知度が低い。苗場山以外は半分以上に人が知らない。

自然や山菜の興味度が全体に高い。

エリアや性年代別で興味度の高い項目は異なる。

【来訪意欲】「どちらとも言えない」層が多く「行きたいと思う」が低い。

\*首都圏・北陸・東海エリアの栄村の認知度は、地名・観光素材共に低い。観光素材に対する満足度と興味度は高い。ターゲットを意識した商品造成が必要。

### ③ じゃらんご当地パンフレットの作成

来訪顧客のエリア内での行動量を増やす、地域に利益を生む、その手助けとなることを目的に、じゃらんのブランド力・コンテンツ制作力を活かして制作する着地型パンフレット。

⇒村の女性に「心のふるさと栄村」を体感できる着地型商品開発や、着地型パンフ作成の素材集めにご協力をいただきました。

⇒春季ご当地パンフは 3 月納品 10000 部作成、村内の観光事業者関係及び周辺エリアの観光事業者へ全 8600 部程配布した。

## Ⅱ、【着地型観光整備とテストマーケティング】H25 年 4 月 1 日～H26 年 3 月 31 日

着地型商品を販売し、顧客との交流を重ね、販売効果の検証を行うことで商品を磨き上げ、顧客視点に基づいた商品を開発することができる状態の醸成。

### ① 受入れ整備（旅づくり塾）

#### ●宿のおもてなし向上プロジェクト（3回）

⇒宿泊施設対象に5月、10月、11月 11名参加

最新の旅行者の動向や要望などを学ぶセミナーで、宿泊施設における満足度の向上をテーマとしたプログラム。2回はネット社会に対応する為の基礎的な知識の提供から、「じゃらんnet」の活用方法を、車座で意見を反映しながら実施。

#### ●ご当地グルメ開発プロジェクト（3回）

⇒飲食店対象に10月2回と11月 14名参加 商品化を見据えた取組

\*栄村はトマト・あんぼ「鍋料理」を開発（雪あかりは現在「あんぼ鍋」提供）

#### ●特産品開発プロジェクト（3回）

⇒工芸品/土産物店対象に1月9、30、3月5日 16、26、17名参加

生産者は生きがいとしての物づくり、今後生産に結び付けて行くのかどうか

\*各プロジェクトに担当リーダーを設置し、ワークショップの参加者募集、全体設計や地域のとりまとめ等を行う予定でしたが出来なかった。

### ② プロモーション事業（広告）

⇒じゃらん本誌（フリー6P）5,7,12,3 各月発売「関東東北版」14万5000部  
栄村の認知度アップ及び四季の集客最大化のための出稿。

5月取材；「あんぼ」の阿部さんグループ、民宿苗場荘 女将さん、雄山荘 山田さん（木鉢）、村観光協会 内山さん

7月取材；「苗場山登山」写真家 飯塚英晴さん、子供向けに川遊び・河原の温泉、夏の体験（祭、ホタル、星空）、宿 キャンプ場紹介、百合居温泉利用の関谷さんファミリー、民宿「丸山荘」ご夫妻、笹原の田植え関澤さん夫妻、アスパラ収穫女性、ケチャップ等の開発女性3名

12月取材；雪遊び、食体験紹介、マタギの福原和人さん、移住の鎌水さん  
あんぼの渡邊加奈子さん

3月取材；伝統工芸人紹介、雪あかりの主人 女将さん 料理長さん 他

⇒じゃらん本誌（フリー4P）9月発売「関東東北版」14万5000部

8月取材；紅葉スポット紹介（村観光協会の福原さん）、そば打ち名人、宮川農園、小赤沢の子供たち、秋山郷のおばあちゃん、小滝古道加藤さん

⇒じゃらんnet フリーページ、TOP フッターバナー、メールテキスト（関東）  
じゃらんネット内に、行政自治体の為のエリアプロモーション用企画「旅トピ」に情報掲載（バナーで注目度アップ、フリーページで継続的に紹介、今期アプリ型の媒体「週刊じゃらん」にも栄村の情報を掲載、誘客PRを展開）

### ③ モニターツアー

⇒専門家5名（編集、バイヤー、フードコーディネーター）を招聘し、村内の生産現場を含む視察で、意見交換を行い今後についてのアドバイスを受ける。

つぐら制作はクオリティによって価格帯を分けるとよい。

販促用のネーミング、PR文（ストーリー）・パンフレットデザインに工夫をこらす。

① 栄村ご当地じゃらん

⇒ご当地パンフレット（春夏号）16P ページ1万部印刷

村内の宿泊施設全ての情報を掲載 同時に、閑散期である5～6月の早春の栄村の魅力を紹介する。

② 宿泊施設向けネットセミナー

⇒宿泊施設を訪問し、ネット参画施設の在庫管理・プラン造成等を直接説明。

③ PR（広告）

⇒じゃらん本誌9月（フリー4P）秋の紅葉「栄村からの誘客情報」を掲載。

じゃらん本誌3月（フリー4P）早春の栄村の魅力を旅行検討中の読者に情報発信。

⇒じゃらんネット

フリーページ2回掲載（1/29、3/26から各2か月間掲載）

旅トピページ2回掲載（1/29、3/26から各8週間掲載）

メールテキスト広告（関東）2回掲載（1/29、3/19）

しゅうかんじゃらん12週掲載（3/5～5/27）

IV、【誘客キャンペーン】H27年4月1日～9月30日

●PR（広告）

⇒じゃらん本誌（フリー6P）4月発売号

春（GW）のネット誘客キャンペーンのプロモーション

栄村の春の芽吹き（生きてる山、自然を感じる旅の魅力を発信）

ターゲットは中高年の自然好きの夫婦旅行。

⇒週刊じゃらん（12週掲載）4～5月の2か月間

## ■伝統工芸伝承事業

### 【計画】

担い手の消滅が懸念される伝統工芸を、若い担い手へ継承させ技能の保存を図る。工房見学・体験の場及び、お土産物品として観光振興においても活用を目指す。

### 【現状】

長野県知事指定の伝統的工芸品は現在14品目（1987(昭和62)年指定）あり、栄村では「桐下駄」「秋山木鉢」が指定を受けています。平成23年3月の北部地震では「桐下駄」工房は全損、原材料（信越桐）不足で入手も困難、今は外注の下駄に鼻緒付け「道の駅」等で店頭販売している状況。指定外では「わら細工」等の歴史もある。

### 【経緯】

長野県は昨年3月に県中小企業振興条例（地場産業の振興）が施行されたのを機に、指定品目の掘り起こしを進めていました。同年8月に県産業労働部ものづくり振興課は「猫つぐら」が取上げられた事を村へ連絡。村は県審査の同行を公社に依頼、指定を受ける為の調査に入る事となった。

### 【工芸品指定の目的】

地域の自然と暮らしの中で、育まれ受け継がれてきた伝統性のある工芸品を、長野県の指定を受けることにより、製造する地域住民の製造意欲の高揚及びその工芸品の育成を図ることを目的。

⇒現地調査 8/25

青倉の高橋甚治さん宅へお話（歴史）と写真撮影（県2名、振興公社 村山）

⇒長野県伝統的工芸品指定申出書作成（H26年10月7日提出）

申出団体名：栄村つぐら振興会（代表 藤木金壽）

団体の規約、会員名簿、沿革（歴史）

村長の意見書

工芸品の名称：栄村つぐらワラ細工

工芸品の概要：猫つぐら（ペットハウス）、飯つぐら（保温）、つぐら（籠 育児用）

主要製造工程：

猫つぐら：藁乾燥→藁すぐり→藁切り→藁打ち→底編み→胴編み→へそ作り

飯、ぼぼ：藁乾燥→藁すぐり→藁切り→藁打ち→底編み→胴編み→蓋編み→縁作り

従事者数：13名、団体の事業実施状況：年1～2回の勉強会

その他：工芸品及び制作過程の写真

◆「栄村つぐら」長野県伝統的工芸品の指定を受ける（H26年11月27日付）

他「飯田水引」「松代焼」「信州からまつ家具」の計4品目が新たに指定される。

◆PR、催事等出店販売 主催：県ものづくり振興課 or 県中小企業団体中央会

「信州手しごと博覧会」 H27年2月13日～18日 ながの東急百貨店

「県知事指定 伝統的工芸品」県庁ロビーにて展示即売会 H27年3月9～11日

「銀座 NAGANO」登録商品指定申請 H27年5月19日

「しあわせ信州ふるさと商品」に認定 県産品として販売 H27年6月1日～

「信州フェア」での伝統的工芸品の県産品展示 PR

東京九段下「ホテルグランドパレス」 H27年8月17日～9月27日

⇒指定「つぐら」後はメディア取材や県のPR等で話題を呼び、制作が間に合わない状況となっています。

◆販売価格の推移「猫つぐら」

平成15年 大/10,000、中/9,000、小/8,000

平成20年 大/12,000、中/10,000、小/9,000 中日新聞掲載

平成24年 大/15,000、中/12,000、小/10,000 地震1年後製作開始

平成27年 大/20,000、中/12,000、小/10,000 長野県伝統工芸品指定

⇒制作者「つぐらの会」より料金の改定要望あり現行。手数料の検討。

## 【課題と対応】

① 需要の低迷（生活様式の変化）

⇒需要を喚起する商品開発と販路開拓（IT活用）

伝統品の良さの認識、子供達の文化 伝統に対する知識向上

② 手作り、技術 技法のこだわりから量産化は困難

⇒長野県伝統的工芸品の表示及びマーク等の普及

③ 作り手の高齢化と将来への不安で就労意識に変化

⇒教室開校等での人材後継者育成。小中学生教育の機会を活用した体験

#### ④ 生産基盤の原材料確保が深刻

⇒稲作農家・製作者・販売事業者で連携した原材料確保

道具（藁すぐり、藁たたき機、槌、編み針）

※秋山木鉢・桐下駄（伝統的工芸品）も同様な課題がある。

### ■加工品開発について

#### 【目的】

村内の農産物を村内で加工し付加価値を高めた特産品を開発、雇用の創出、農業者の生産意欲向上、遊休荒廃地対策等を図る。

#### 【現状】

村には加工販売できる施設があり、多数の村民が登録し利用しています。加工品は個人消費が多く、店頭に並ぶ商品の種類及び数量は少ない状況です。今後は来訪された方に加工品の調査に協力いただき、施設利用者さんと共同で取組む必要がある。

### ■営業販売促進活動について

#### 【目的】

商品販売を通じて、顧客との緊密な関係を構築することにより、交流人口の最大化。表現する内容が意識して作られていなければならない。催事には多種のパターンがあるが、商品や売上を支えてくれる顧客を明らかにする「ターゲティング」が重要。（現場は「集客」「売上」即時的な効果で評価されますが、ブランド価値を長期的に育成していくためには、販売促進を組み立てる背景や思想の確立が重要）事業より

#### 【営業活動先】

商品内容により活動先が変動してきます。

① 信州 長野県観光協会 銀座 NAGANO、NAGANO マルシェ事務局

② 長野県産業労働部 ものづくり振興課

③ 長野県中小企業団体中央会

④ 長野県 広報 広告メディア

信濃毎日新聞社、長野県経済新聞社、毎日新聞社長野支局、読売新聞長野支局  
共同通信社長野支局、北信タイムス社、北信ローカル

NHK 長野放送局（イベント・広報）、長野朝日放送、信越放送、長野放送  
テレビ信州、FM 長野支社

⑤ 調布、武蔵野各 FM ラジオ、JTB 関連メディア等 他事業で得たメディア

⑥ 横浜市栄区（友好交流都市）区役所、各団体

⑦ 武蔵村山市（姉妹都市交流）市役所、アンテナショップ、各団体

⑧ 東京都市町村職員共済組合（立川市）

⑨ 埼玉土建・東京土建の健保組合（各支部）

⑩ 近隣地域の観光協会及び各種団体との連携

#### 【受入れ整備】

イ.各種案内看板の整備

ロ.景勝スポットの整備

ハ.散策コースの整備

**■総括**

この事業は「交流人口増加による産業振興」をねらいとし、多くの村民が登場する「村民主役の観光」を目指して来ました。

村は村民対象に3年間の事業計画と概要を説明、公社は16名を雇用しスタートしました。又、本事業には観光事業者さんを中心に、村民約400名、人口の2割の大勢の皆さんにご参加いただきました。

自然豊かな里山の恵み、歴史と文化・景観を保全し、地域資源循環の地域づくりを推進し、顔と心に見える交流を通じ、住民主体の地域活性化を目指しているところです。

多くの地域資源の中で「温泉」「秋山郷の紅葉」「あんぼ」「そば」「栄村産コシヒカリ」等は、来訪者の「関心度」の高い事がわかり、誘客できる可能な資源として明確になりました。(GAP調査より)

(本事業より)例えば、夏休み企画等で「自然の中で子供を遊ばせたい」と感じている家族が多くいます。体験を積極的に商品化する事で、家族層誘致の可能性は高い、また雪深い地域に暮らす人は、春の魅力(新緑、芽吹き、山菜等)の伝え方を知っているので誘致が可能です。これら四季を通じ「着地型商品」を持続的に造成していくことは、交流人口を増やす大きな手段となります。また関わる人材が必要になり、旅のプランをサポートする「田舎コンシェルジュ」や「地域のガイド」等を認定することで、住民が生きがいを持ち活躍できる事と考えます。尚、栄村津南エリアの「苗場山麓ジオパーク」は、履歴・由緒と観光を合わせて来訪者に伝えることで感動が得られます。

ここまで本事業の報告をさせていただきました。育成された人材は、今後村の観光戦略の中核を担うことのできる人材と思います。そこで栄村の観光を担っていく中心組織の設立を提言します。

**【提言】**

村の観光や農業産業をマネジメントする機関を設立し、産業の活性化を図る事が必要かと思えます。それは、来訪者に対するスムーズな情報発信・提供を行い来村しやすい雰囲気づくりとして観光事業や案内業務の一本化、若者やIターン者の定住促進の一つとして雇用の場の確保、また、遊休荒廃地を出来る限り減らし、自然環境を維持することにも寄与するものと思えます。

行政だけや一事業者だけでは出来ない、産業活性化による所得向上を目指し、行政・事業者・住民の協働により村づくりをしていける、中心組織の設立を提言します。

避難収容関係(現状)

避難施設一覧

地区	対象地域	世帯数	人員	指定緊急避難場所	指定避難所	収容人員		
豊栄・水内	白鳥	68	169	白鳥公民館一帯	栄中学校	615		
				白鳥三叉路				
				旧豊栄小学校グラウンド				
	平滝	130	231	フランセーズ悠さかえ一帯				
				(うちフランセーズ入居者) 74世帯・75人				
	小計		400					
	塩尻	2	2	区長宅周辺			役場	2
	青倉	58	133	青倉公民館及びその一帯			公民館75役場58	133
	森	82	199	森公民館及びその一帯			公民館60役場139	199
	小計		334					334
計		734			949			
西 部	横倉	47	131	栄小学校及びその周辺	栄小学校	683		
				集落営農共同車庫				
	泉平	22	58	旧堺小学校泉平分室前				
	箕作	48	123	箕作公民館及びその一帯				
				JAみゆき栄出張所付近				
	月岡	44	114	共同苗間前				
				バイパス大巻T字路				
				JAみゆき栄出張所付近				
	小滝	16	42	小滝公民館一帯				
	野田沢(程久保)	28	78	野田沢公民館一帯				
程久保入口付近								
大久保	22	48	大久保公民館一帯					
天地	4	13	天地・菅沢分岐点					
小計		607						
東 部	雪坪・志久見	46	101	志久見公民館一帯	東部社会体育館	340		
				旧志久見分校グラウンド				
	柳在家	15	32	柳在家公民館一帯				
	切欠	14	43	県道沿い漆平地籍				
	長瀬	32	90	東部社会体育館及びその一帯				
	笹原	5	10	笹原作業所一帯				
	原向	20	37	原向公民館一帯				
	小計		313					
	当部	7	8	県道T字路			北野天満温泉	170
	天代	7	13	天代公民館一帯				
	坪野	6	11	坪野公民館一帯				
	北野	14	49	北野公民館一帯				
	中野	11	24	中野区内三叉路				
	極野	23	57	バス停広場				
	小計		162					
秋 山	小赤沢	48	122	秋山郷総合センター	秋山郷総合センター	144		
	五宝木	9	19	五宝木公民館一帯	秋山小学校	232		
	屋敷	27	52	秋山小学校				
	上野原	16	25	上野原公民館一帯				
	和山	11	18	和山公民館一帯				
	切明	4	7	雄川閣				
	小計		121					
合計		2,059			2,518			

避難収容関係(改定案)

避難施設一覧

地区	対象地域	世帯数	人員	指定緊急避難場所	指定避難所	収容人員		
豊栄・水内	白鳥	68	169	白鳥公民館一帯	豊栄避難所 (仮称)188 白鳥公民館69 平滝公民館80	337		
				白鳥三叉路				
				旧豊栄小学校グラウンド				
	平滝	130	231	フランセーズ悠さかえ一帯 (うちフランセーズ入居者) 74世帯・75人				
	小計		400					
	塩尻	2	2	区長宅周辺	栄中学校	615		
	青倉	58	133	青倉公民館及びその一帯	公民館75栄中58			
	森	82	199	森公民館及びその一帯	公民館60栄中139			
	道の駅		50		栄中学校			
	小計		384					
西部	横倉	47	131	栄小学校及びその周辺	栄小学校	683		
				集落営農共同車庫				
	泉平	22	58	旧堺小学校泉平分室前				
	箕作	48	123	箕作公民館及びその一帯				
				JAみゆき栄出張所付近				
	月岡	44	114	共同苗間前				
				バイパス大巻T字路				
				JAみゆき栄出張所付近				
	小滝	16	42	小滝公民館一帯				
	野田沢(程久保)	28	78	野田沢公民館一帯 程久保入口付近				
大久保	22	48	大久保公民館一帯					
天地	4	13	天地・菅沢分岐点					
小計		607						
東部	雪坪・志久見	46	101	志久見公民館一帯	東部社会体育館	340		
				旧志久見分校グラウンド				
	柳在家	15	32	柳在家公民館一帯				
	切欠	14	43	県道沿い漆平地籍				
	長瀬	32	90	東部社会体育館及びその一帯				
	笹原	5	10	笹原作業所一帯				
	原向	20	37	原向公民館一帯				
	小計		313					
	当部	7	8	県道T字路			北野天満温泉	170
	天代	7	13	天代公民館一帯				
	坪野	6	11	坪野公民館一帯				
	北野	14	49	北野公民館一帯				
	中野	11	24	中野区内三叉路				
	極野	23	57	バス停広場				
	小計		162					
秋山	小赤沢	48	122	秋山郷総合センター	秋山郷総合センター	144		
	五宝木	9	19	五宝木公民館一帯	秋山小学校	232		
	屋敷	27	52	秋山小学校				
	上野原	16	25	上野原公民館一帯				
	和山	11	18	和山公民館一帯				
	切明	4	7	雄川閣				
	小計		121					
合計		2,109			2,521			
福祉避難所					北信広域施設			





## 「栄村震災復興計画」に基づき実施した主な事業

	実施した主な事業	達成状況
三つの前提	<b>前提1「安全環境の確保」</b> 「栄村地域防災計画」を策定、住民向けマニュアルを全戸に配布 防災無線のデジタル化工事 秋山地区に震度計設置 空中放射線量測定器整備(4ヶ所) 防災訓練の実施 (H28年度予定新規事業) 水内地区避難所設置、避難場所看板設置	28年度に計画している事業でほぼ完了 防災訓練等随時開催し防災意識を高める
	<b>前提2「地域資源の積極的な活用」</b> 「栄村歴史文化館」開設、古文書・古民具の展示と栄村文化の発信 森林資源の活用、木質チップ製造の促進 北野天満温泉に木質チップボイラー導入、災害時にも活用可能 着地型観光事業の推進 小水力発電所可能性調査 天然水を活用した官民連携の企業誘致による雇用創出	施設整備はほぼ完了 今後はこれらの施設を有効に活用して村の活性化につなげる
	<b>前提3「集落ごとの特色ある復興」</b> 「総合サポートセンター」設置、復興支援員を配置し被災者支援、地域活性化活動 秋山地区への地域おこし協力隊導入 ふるさと復興支援金による集落独自の復興・活性化事業支援 空き家再生支援事業	震災後の人口減少は著しく、これからも集落支援は必要
三つの基本方針	<b>方針1「暮らしの拠点・集落の復興・再生」</b> 復興村営住宅18棟31戸を8集落に建設、コミュニティの維持を図る 入居者に対しては復興交付金により家賃低廉、低減事業を続ける 自力で住宅再建を行う方への住宅再建支援、利子補給を実施 若者等の定着を促すための住宅リフォーム支援と定住マイホーム支援 全壊した青倉地区、森地区の公民館建設 避難所となる地区公民館の耐震診断と改修費補助 耐震不足により建替え希望の公民館の建設費補助 各集落(避難所等)にAEDと非常用発電機を配置 駅前複合施設の整備	住宅等施設整備はほぼ完了 今後は生活しやすい環境づくりのための住民支援を進める
	<b>方針2「農業を軸に資源を活かした新たな産業振興」</b> 被災農地の復旧支援事業 集落営農を推進するための育苗施設、共同利用機械の整備 農産物販売所整備 穀類乾燥調製施設整備 ふるさと納税による農業支援 着地型観光の推進、ジオパークの活用 (H28年度より5ヵ年実施予定) 老朽化や震災により破損している農業施設の整備	災害復旧事業はほぼ完了 28年度から県事業による農業施設整備を実施 農産物の販売促進や着地型観光を進める
	<b>方針3「災害に強い道路ネットワークの構築」</b> 被災した村道の整備 村道天代坪野線土合橋橋梁架け替え工事 デマンドバス車両整備、タイヤ改正 (県道事業) 国道117号回路となる県道箕作飯山線整備、箕作橋架設 県道長瀬横倉停線の改良工事	災害復旧事業はほぼ完了 村道・県道改良は随時進める

栄村復興事業「栄村震災復興計画」対応表

項目	取り組むべき内容	村事業【H24決算】	村事業【H25決算】	
三つの前提	前提1「安全環境の確保」	(1)安全な暮らしを確保するための地域点検・調査・分析 (2)震災被害やその対応等を踏まえた新たな「栄村地域防災計画」の策定 (3)防災教育・防災訓練等の検討 (4)災害時及び復旧・復興における情報収集・伝達・発信方法等の検討	■震災復興記録集「絆」発行(320)	○「栄村地域防災計画」策定事業(4,515) ○避難所等AED・非常用発電機設置事業(20,288) ○避難施設建物耐震化診断(3,166) ○秋山地区震度計設置事業(6,449) ○被災者支援システム導入(1,050) ○震災記録の継承事業(857)
	前提2「地域資源の積極的な活用」	(1)各集落に存在する豊かな地域資源の発掘 (2)地域資源の発掘、活用方法の検討	■森林資源活用事業(チップ製造機)(13,482) ■小水力発電可能性調査(2,100) ■地域資源活用研究会活動事業	○古文書・古民具等の保存・活用事業(5,565) ■森林資源活用(ボイラー導入設計)(2,978) ○森林資源活用(チップ製造機)(8,201) ○着地型観光推進事業(2,017) ■復興支援員設置事業(2,401) ■森林資源活用(チップボイラー導入)(50,400) ■地域資源活用研究会活動事業
	前提3「集落ごとの特色ある復興」	(1)二つの前提に関連付けた集落独自の復興の展開 (2)復興の主役としての集落への支援	・住民自らによる復興への取組のためのきっかけ作りなどの支援 ・集落での復興に向けた研修会の実施、復興の専門家等を集落へ派遣	○「総合サポートセンター」設置運営事業(4,385) ■復興支援員設置事業(再掲)
三つの基本方針	方針1「暮らしの拠点・集落の復興・再生」	(1)被災者への生活支援 ①被災者の総合的生活支援を行う「総合サポートセンター(仮称)」の設置 ②被災した個人住宅への支援 ③緊急仮設住宅居住者の生活環境改善等の支援(緊急課題等)の整備 ④震災復興村営住宅の整備等、住宅被災者への支援 ⑤各集落の生活環境への対応 (2)防災拠点としての集落施設の整備 ①防災拠点としての施設(公民館、集落内道路、交通確保等)の整備 ②防災拠点としての公民館等の整備(併せて地域再生の拠点として位置付け) ③集落内の道路網の確保 ④緊急施設(防災拠点やヘリポート等)の配置点検と交通の確保 (3)地域力・防災力を強化するための集落の整備 ①防災の中心的担い手となる若者が定住するための対策の強化 ②若者の定住用住宅の整備 ③子育てしやすい街づくりの整備 ④集落を拠点とする産業(農業、雇員加工、交流・観光等)づくりの整備 ⑤集落の基盤となる道路、水路等の諸施設の整備と維持管理体制への支援 ⑥集落の風土や文化的景観の保全	●災害公営住宅整備事業28戸(592,398) ●災害公営住宅家賃低廉化事業(11,622) ●東日本大震災特別家賃低減事業(1,824) ●村営住宅建設事業、村庫3戸(61,182) ●災害公営住宅駐車場整備事業(43,350) ○被災住宅復興再建支援事業(75,856) ○被災者住宅復興利子補給事業(9,492) ■被災者支援業務委託(総いへ4か月間)(1,310)	○「総合サポートセンター」設置運営事業(再掲) ●災害公営住宅家賃低廉化事業(34,385) ●東日本大震災特別家賃低減事業(4,507) ●復興住宅外構整備事業(予算は上記2事業に含む) ○被災住宅復興再建支援事業(27,136) ○被災者住宅復興利子補給事業(6,186) ○被災者支援システム導入(再掲)
	方針2「農業を軸に資源を活かした新たな産業展開」	(1)被災した農地・農産物施設の復旧・整備(復旧前の緊急課題) ①復旧旧工事の早期完了と工事後の対応 ②復旧後の生産体制への支援 (2)農林地の整備と農林業の担い手の育成 ～未整備農地への対応、周辺の森林との一体的整備～ ①今後の地域の農業の検討 ②全村の農地整備計画の作成 ③対象農地の周辺林地との一体的な整備計画の策定 ④農作業の安全と維持管理労働の軽減を目的とした整備 ⑤ゾーニング(地区区分)された農地での担い手 (3)「自復して安心して食べてもらえるもの」を基本とする生産・加工・販売の構築 ～農業の6次産業化の推進～ ①今後の生産・加工・販売等の検討 ②産地利用・集落農産物の推進と担い手の確保 ③少量多品目生産を基本とする生産・販売体制の確立 ④農産物加工の推進、販路重点特産品の選定 ⑤6次産業化推進のための実践的な勉強会や研修会の実施 (4)新たな産業・事業の創出 ①農業を軸にした新たな産業や事業の創出 ②都市住民との交流を軸とする新たな産業・事業の創出と展開 ③民間企業、NPO、集落などによる起業の推進と支援 ④既存の産業や企業等の基盤強化と新たな事業展開への支援 (5)森林計画の策定と森林資源の活用 ①森林資源の把握と森林計画の策定 ②森林資源の総合的活用方策の検討	●農山漁村地域復興基盤総合整備事業(16,627) ●被災地域農業復興総合支援事業(育苗施設5か所44,310、農業用機械28,202) ○被災農地復旧支援事業(6,751)	○畦畔等管理省力化事業(2,767)
	方針3「災害に強い道路ネットワークの構築」	(1)村外へ通じる幹線道路の整備 ～村が孤立しない道路網の整備～ ①災害時の幹線道路の確保 ②国道117号の代替路確保の確保として、再建案件(山崎の突作→明石区間の道路整備)及び他路線の整備の検討、国道405号の安全確保として、和山→小浜区間の整備及び他路線の整備の検討 (2)村内の集落間連絡道路及び集落内道路の整備 ～集落が孤立しない道路網の整備～ ①村内の道路網計画の作成とそれに基づく整備 ②秋山地区と東部地区を結ぶ冬期間不通にならない幹線道路の整備の検討 ③集落間連携(幹線の改良(貝原坂の根本的改良、その他)の局所的整備(集落内)) ④孤立集落の発生を防ぐ観点から、集落内や周辺の農道、林道、道、古道等の配置の検討 ⑤集落・山間地域の特性を踏まえた整備の検討、特に雪崩対策や落石防止等対策の強化 (3)交通安全、安全施設及び道路周辺の交通環境の整備 ①子どもや高齢者の安全が確保できる交通環境の整備 ②道路/ドロー体制の整備、交通安全の確保 ③集落の特性に応じ、利便性や安全性を高め、景観的などとも見える道路の付帯施設の整備 (4)子どもや高齢者が利用できる交通体系の整備 ①買い物、医療、福祉のための交通環境の整備、交通システムの根本的な改善	■生還現役・全員参加・世代継承型雇用創出事業(48,537)	●被災地域農業復興総合整備事業(効果促進)(調査委託、研修等)(再掲) ●被災地域農業復興総合支援事業(効果促進)(調査委託、研修、育苗箱購入等)(再掲)
	その他	地域活性化支援 栄村復興支援全般	■森林資源活用事業(チップ製造機)(再掲) ■地域資源活用研究会活動事業	○森林資源活用(ボイラー導入設計)(再掲) ○森林資源活用(チップ製造機)(再掲) ■森林資源活用(チップボイラー導入)(再掲)
	その他			●農山漁村地域復興基盤総合整備事業(効果促進)(調査委託、研修等)(再掲) ●被災地域農業復興総合支援事業(効果促進)(調査委託、研修、育苗箱購入等)(再掲)

【基本目標】 震災をのりこえ、集落に子ども元気の音が響く村を

栄村復興事業「栄村震災復興計画」対応表

村事業：○=県基金事業、●=復興交付金事業、◆=地方創生、■=その他

(単位：千円)

項目	取り組むべき内容	村事業【H26決算】	村事業【H27予算】	
三つの前提	前提1「安全環境の確保」 (1)安全な暮らしを確保するための地域点検・調査・分析 (2)震災被害やその対応等を踏まえた新たな「栄村地域防災計画」の策定 (3)防災教育、防災訓練等の検討 (4)災害時及び復旧・復興における情報収集・伝達・連携方法等の検討	各集落の安全、農業用施設、森林、医療体制等の点検・調査・分析の委員会設置等 既存の「栄村緊急災害対策基本方針」をもとに「新たな「栄村地域防災計画」を策定」 住民による防災勉強会等の開催と支援等 災害時の情報伝達方法の改善、村内への情報発信のあり方の抜本的な見直しを図る	○防災マニュアル等作成事業(908) ○避難施設耐震化診断(2,053) ○避難施設耐震設計事業(5,264) ○震災記録の継承事業(1,620) ■防災行政無線デジタル化事業(432,356)繰越	○避難施設建物耐震化診断(4,990) ○避難施設耐震設計事業(16,360) ○栄村公民館改修費補助(26,000) ○空中放射線測定器設置事業(2,290) ○防災LED化事業(8,907)
	前提2「地域資源の積極的な活用」 (1)各集落に存在する豊かな地域資源の把握 (2)地域資源の発掘、活用方法の検討	住民自らが、村外の専門家など多くの人たちの英知を結集して、集落の地域資源を発掘 地域資源発掘のための集落点検等を開催し、専門家等の協力のもと活用を検討	○古文書・古民具等の保存・活用事業(73,816) ○着地型観光推進事業(1,210) ○空き家再生等支援事業(10,013) ■森林資源活用(ストックヤード建設等)(72,482) ○森林資源活用(トップ製造事業)(15,104)繰越 ■復興支援員設置事業(9,633) ■地域資源活用RT	○古文書・古民具等の保存・活用事業(2,143) ○着地型観光推進事業(1,659) ■復興支援員設置事業(10,896) ■地域おこし協力隊員設置事業(7,528) ○■小水力発電導入推進事業(7,128) ○■森宮野原駅前複合施設建設事業(220,360) ■地域資源活用RT
	前提3「集落ごとの特色ある復興」 (1)二つの前提に関連付けた集落独自の復興の展開 (2)復興の主体としての集落への支援	住民自らによる復興への取組のためのきっかけ作りなどの支援 集落での復興に向けた研修会の実施、復興の専門家等を集落へ派遣	○「総合サポートセンター」設置運営事業(5,444) ○空き家再生等支援事業(再掲) ○ふるさと復興支援金事業(16,003) ■復興支援員設置事業(再掲)	○「総合サポートセンター」設置運営事業(5,444) ○空き家再生等支援事業(再掲) ○ふるさと復興支援金事業(50,000) ■復興支援員設置事業(再掲)
三つの基本方針	方針1「暮らしの拠点・集落の復興・再生」 (1)被災者への生活支援 ①被災者の総合的生活支援を行う「総合サポートセンター(仮称)」の設置 ②被災した個人住宅への支援 ③応急仮設住宅居住者の生活環境改善等の支援(緊急的課題)の整備 ④農業復興村営住宅の整備等、住宅被災者への支援 ⑤本期間の生活環境への対応 (2)防災拠点としての集落施設の整備 ①防災拠点としての施設(公民館、集落内道路、交通確保)等の整備 ②防災拠点としての公民館等の整備(併せて地域再生の拠点として位置付け) ③集落内の避難路の確保 ④緊急施設(防災拠点やヘリポート等)の配置点検と交通の確保 (3)地域が防災力を強化するための集落の整備 ①防災の中心の担い手となる若者が定住するための対策の強化 ②若者の定住用住宅の整備 ③子育てしやすい街づくりの整備 ④集落を拠点とする産業(産業：農林加工、交流、観光)等の整備 ⑤集落の基盤となる道路、水路等の諸施設の整備と維持管理体制への支援 ⑥集落の風土や文化的景観の保全	①被災者の総合的生活支援を行う「総合サポートセンター(仮称)」の設置 ②被災した個人住宅への支援 ③応急仮設住宅居住者の生活環境改善等の支援(緊急的課題)の整備 ④農業復興村営住宅の整備等、住宅被災者への支援 ⑤本期間の生活環境への対応 ①防災拠点としての施設(公民館、集落内道路、交通確保)等の整備 ②防災拠点としての公民館等の整備(併せて地域再生の拠点として位置付け) ③集落内の避難路の確保 ④緊急施設(防災拠点やヘリポート等)の配置点検と交通の確保 ①防災の中心の担い手となる若者が定住するための対策の強化 ②若者の定住用住宅の整備 ③子育てしやすい街づくりの整備 ④集落を拠点とする産業(産業：農林加工、交流、観光)等の整備 ⑤集落の基盤となる道路、水路等の諸施設の整備と維持管理体制への支援 ⑥集落の風土や文化的景観の保全	○「総合サポートセンター」設置運営事業(再掲) ●災害公営住宅家賃低廉化事業(32,301) ●東日本大震災特別家賃低減事業(4,221) ○住宅リフォーム支援事業(1,600) ○避難施設建物耐震化診断(再掲) ○避難施設耐震設計事業(再掲) ○ふるさと復興支援金事業(再掲) ○「総合サポートセンター」設置運営事業(再掲) ○森宮野原駅前複合施設整備事業(4,683) ○古文書・古民具等の保存・活用事業(再掲)	○「総合サポートセンター」設置運営事業(再掲) ●災害公営住宅家賃低廉化事業(23,221) ●東日本大震災特別家賃低減事業(1,578) ○住宅リフォーム支援事業(2,000) ○若者定住マイホーム支援事業(5,000) ○避難施設建物耐震化診断(再掲) ○避難施設耐震設計事業(再掲) ○栄村公民館改修費補助(31,000) ○避難場所用地取得費補助(1,614) ○ふるさと復興支援金事業(再掲) ○「総合サポートセンター」設置運営事業(再掲) ○森宮野原駅前複合施設整備事業(再掲)繰越 ○森宮野原駅前駐車場整備事業(20,801) ○古文書・古民具等の保存・活用事業(再掲)
	方針2「農業を軸に資源を活かした新たな産業復興」 (1)被災した農地・農業用施設の復旧・整備(復旧期の緊急課題) (2)農林地の整備と農林業の担い手の育成～未整備農地への対応、周辺の森林との一体的整備～ (3)「自慢して安心して食べてもらえるもの」を基本とする生産・加工・販売の構築～農業の6次産業化の推進～ (4)新たな産業・事業の創出 (5)森林計画の策定と森林資源の活用	①災害復旧工事の早期完了と工事後の対応 ②復旧後の生産体制への支援 ①今後の地域の農業の検討 ②全村の農地整備計画の作成 ③対象農地の原状復旧と一体的な整備計画の策定 ④農作業の安全と維持管理労働の軽減を目標とした整備 ⑤ワーキング(地区区分)された農地での担い手 ①農林漁村活性化プロジェクト支援事業(直先施設等整備110,190) ●農山村地域復興基金総合整備事業(直先施設開設支援業務1,080) ●被災地地域農業復興総合支援事業(穀類乾燥調製施設整備186,613、パレイザ-購入5,076) ●農林漁村活性化プロジェクト支援事業(再掲) ●農山村地域復興基金総合整備事業(再掲) ●生涯現役・全員参加・世代継承型雇用創出事業(92,904) ●着地型観光推進事業(再掲) ■地域資源活用RT(再掲)	■畦畔等管理省力化事業(636) ■畦畔等管理省力化事業(再掲) ■畦畔等管理省力化事業(再掲) ●共同牛舎建設事業(106,225) ●農林漁村活性化プロジェクト支援事業(再掲) ●共同牛舎建設事業(再掲) ◆栄村農産物販売所運営支援事業(9,700)繰越	■畦畔等管理省力化事業(1,662) ■畦畔等管理省力化事業(再掲) ●共同牛舎建設事業(再掲) ◆栄村農産物販売所運営支援事業(9,700)繰越
	方針3「災害に強い道路ネットワークの構築」 (1)村外へ通じる幹線道路の整備～村が孤立しない道路の整備～ (2)村内の集落間連絡道路及び集落内道路の整備～集落が孤立しない道路網の整備～ (3)交通安全、安全施設及び道路周辺の交通環境の整備 (4)子どもや高齢者が利用できる交通体系の整備	①災害時の幹線道路の確保 ・国道117号の代替幹線の確保として、県道寅作山峠線の実行～明石区間の道路整備 及び他路線の整備の検討：国道405号の安全確保として、和山～小浜沢区間の整備及び他路線の整備の検討 ①村内の道路網計画の作成とそれに基づく整備 ・秋山地区と東部地区を結ぶ冬期間不通にならない幹線道路の整備の検討 ・無道或いは狭道(傍溝)の改良(員選抜の抜本的改良、その他の箇所は整備検討) ・孤立集落の発生を防止する観点から、集落内や周辺の農道、林道、手道、古道等の記録の検討 ・高層地域・山間地域の特性を踏まえた整備の検討、特に雪崩対策や落石防止等の対策強化 ①子どもや高齢者の安全が確保できる交通環境の整備 ②道路、歩・車・自転車等の整備、交通安全の確保 ③集落の特性に応じ、利便性や安全性を高め、質的かつ中立的な交通体系の整備 ④買い物、医療、福祉のための交通環境の整備、交通システム上の抜本的な改善	○「総合サポートセンター」設置運営事業(再掲) ○空き家再生等支援事業(再掲) ○ふるさと復興支援金事業(16,003) ■復興支援員設置事業(再掲)	○「総合サポートセンター」設置運営事業(再掲) ○空き家再生等支援事業(再掲) ○ふるさと復興支援金事業(50,000) ■復興支援員設置事業(再掲)
	その他	地域活性化支援 栄村復興支援会費	○デマンド交通車両購入補助(6,916)	